

（渡辺市長）

今月に入ってからオスプレイ暫定配備の方針決定に関しての報道が幾つかありました。それに対しまして、大臣からもまだ検討中、決定までは至っていないというコメントもあった中で、その後も幾度と報道がありました。情報管理という面で大変不快感を覚えました。もし、それについて、木更津市民の様子見のため情報が出されたということであれば、大変市民にとって失礼な話だと思います。そんな中で、一連の報道に対して、まずはご意見をいただければと思います。

（原田副大臣）

お話のありました点につきましては、先日来、陸自オスプレイの暫定配備の報道もございました。これは大変残念に思っておりますが、防衛省内でしかるべき検討を行い、結論を出し、今日のこの訪問をさせていただいたところでございます。今、市長さんからご指摘をいただいたようにアドバルーン的に、木更津市民の皆さんの状況を判断するというような意図で、防衛省から意図的に、そのような情報を流したという事実はございません。その点は、ご理解をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

（渡辺市長）

副大臣ご存知のとおり、陸海空それぞれの基地が今木更津にはございます。大変長い歴史の中で、自衛隊と市民の皆様、特に地域の皆様と大変良好な関係を保っていると思っております。基地の皆様についても、地域のために、様々なできることを探していただいておりますし、北関東防衛局の皆様にも定期機体整備を含めて、様々なご支援をいただいております。そのような中で、相互の信頼関係というものが大切でございますので、木更津市だけでなく、他の地域に対してのご配慮もぜひともよろしくお願いをさせていただきたいと思います。

それでは、いくつかご質問させていただきたいと思います。

まず、先ほど、木更津駐屯地が最適であるというご説明を詳しくお話をいただきましたけれども、改めて、その理由について少し確認をさせていただきたいと思います。どのような場所と、どのような比較検討を行って最適地であるとの評価に至ったのか。

また、相浦駐屯地まで相当離れておりますが、それでも最適といえるのかということについて改めて伺いたいと思います。

（原田副大臣）

防衛省としては、佐賀空港における施設整備が完了するまでの一時的な措置ということで、様々な選択肢を検討させていただきました。それぞれについて検討させていただいた結果、今、米国において陸自オスプレイを用いた教育訓練を実施しておりますけれども、米国における教育訓練後には、要員の練度を強化して、即応態勢をとるために、国内で暫定的な配備を行う必要があると考えており

まして、この点、国内における暫定的な配備地の候補としては、オスプレイの運用に必要な1500mという滑走路の長さ、オスプレイ17機を配置できる余積を有していること、既存配備機の運用への影響を最小限にとどめることができること、既存の施設が利用可能であり、できるだけ早期に運用基盤として活用できることを考慮しました。これらの条件を満たす自衛隊の駐屯地・基地の中で、水陸機動団の所在地である佐世保までの距離が最も近い木更津駐屯地に暫定配備を行いたいとの考えに至ったところでございます。

（渡辺市長）

関連して、木更津駐屯地には、第1ヘリコプター団が配備されておりますけれども、オスプレイの部隊との関係において、その関係性も最適地と評価した理由に入っているのか、お聞かせください。

（小波審議官）

陸自オスプレイ部隊については、水陸両用作戦以外にも災害派遣等の様々な任務を想定していることから、従来より、全国規模で展開する陸自最大の航空部隊である第1ヘリコプター団の隷下として保持することとしており、このことは、これまでもご説明してきたところでございます。

一方、繰り返しになりますけれども、木更津駐屯地に暫定配備を行いたいとの考えに至ったのは、様々な観点から検討した結果、滑走路の長さ、17機を配置できる余積の有無などを考慮したこと等によるものでございまして、オスプレイ部隊の上級部隊である第1ヘリコプター団が所在することをもってそのような考えに至ったわけではございません。なお、佐賀空港周辺の方々にご了解をいただいて、いわゆるオスプレイ部隊が配備される場合にも、引き続き第1ヘリコプター団の隷下で配属することを考えております。

（渡辺市長）

報道では、木更津駐屯地が陸自オスプレイの定期機体整備の拠点であることが暫定配備の方針を固めた背景にあるとのことでしたが、この点についても確認をさせていただきたいと思います。

（小波審議官）

防衛省としては、木更津駐屯地において、米海兵隊オスプレイの機体整備とともに、将来、陸自オスプレイの整備を実施することにより、日米オスプレイの共通の整備基盤を確立していく方針を従来から地元にもご説明しているところでございます。一方で、陸自オスプレイの本来の配備先はあくまでも佐賀空港でございまして、佐賀空港に配備された場合においても、陸自機の機体整備等は木更津で行うことを予定しているところでございます。その上で繰り返しになりますけれども、木更津駐屯地に暫定配備を行いたいとの考えに至ったのは、先ほどから申し上げておりますように様々な観点から検討した結果でございまして、

いわゆる機体整備の拠点があることをもって、こちらに暫定配備をお願いすることになったというわけではございません。

（渡辺市長）

最適地と評価された理由については、大方確認ができましたが、現段階で暫定配備先を木更津駐屯地に決定したということではないという理解でよろしいでしょうか。

（原田副大臣）

防衛省としては、佐賀空港に配備可能となるまでの暫定的な配備先について、先ほども申し上げましたが、様々な観点から検討した結果、滑走路の長さ、17機を配置できる余積の有無などを考慮して、木更津駐屯地に暫定配備させていただきたいという考えには至りましたけれども、今後、木更津市の皆様のご理解とご協力を頂くために、丁寧な説明を尽くしていく予定でありますし、そうした丁寧なプロセスを経ず、一方的に暫定配備を行うということは考えていません。

（渡辺市長）

陸自オスプレイの恒久的な配備先については、佐賀空港に決定していて、木更津駐屯地が恒久的な配備先になる可能性はないということでしょうか。

（原田副大臣）

木更津駐屯地への暫定配備は、佐賀空港への配備の準備が整うまでの暫定的なものでありまして、本来の配備先が佐賀であるとの計画に全く変更はございません。

（渡辺市長）

佐賀空港の施設整備について確認させていただきます。有明海漁協との調整状況と施設整備のスケジュールを今言える範囲の中でご説明いただければと思います。

（小波審議官）

佐賀空港への配備につきましては、昨年8月24日、佐賀県知事から防衛省の要請を受け入れるとの表明を頂いております。この点、佐賀県は、現在、「佐賀空港を自衛隊と共用しない。」との約束がある公害防止協定を変更することについて、有明海漁協と協議・調整をしており、偶然ではありますが、本日、佐賀県知事が有明海漁協に対し、直接説明されると承知しております。

その上で、佐賀空港における施設整備は、防衛省による土地取得の後、工事に着手という流れになりますが、工事着手後の工期について、今後、基本検討業務等の中で決定していくことから、現段階で確定はしておりません。いずれにいたしましても、施設整備には一定期間を要すると見込んでいるところでございます。

防衛省としては、佐賀県と漁協との間の協議の進展を見守りつつ、地権者でも

ある漁業者の方々のご理解を得られるよう、丁寧かつ着実に進めてまいりたいと考えているところでございます。

（渡辺市長）

オスプレイの機体自体の安全性の根拠について、先ほどもご説明いただきましたが、改めて防衛省の見解をお聞かせいただければと思います。

（小波審議官）

オスプレイは、平成１７年に米国政府がその安全性・信頼性を確認した上で既に量産が開始されております。日本国政府といたしましても、平成２４年、米海兵隊のMV－２２の普天間飛行場への配備に先立ち、分析評価チームを設置するなど、独自に安全性を確認したところでございます。

また、平成２６年、我が国も陸上自衛隊にオスプレイを導入することを決定いたしました。その検討過程において、改めて、各種技術情報を収集・分析し、安全な機体であることを再確認したところでございます。

さらに、防衛省は、平成２８年秋から米海兵隊の教育課程に陸自のオスプレイ要員を派遣しております。これら陸自要員は、実際に機体の操縦・整備を既に行っておりますが、これらの要員もオスプレイは安定した操縦・整備が可能であり、信頼できる機体であるとの見解を有しており、防衛省としては、オスプレイは機体を含め安全性について問題がないとの評価をしているところでございます。

（渡辺市長）

市としては、暫定配備後の訓練内容や安全性、生活環境への影響等について、改めて、説明を伺ってまいりたいと考えております。まずは、市議会への説明や市民への直接の説明の機会をしっかりと設けていただきますようよろしくお願いいたします。

今般の要請につきましては、市民の意見を伺いながら、市議会や千葉県と相談をし、受入れの可否について十分に検討してまいりたいと考えております。